

コラム 5: ハイテクノロジー産業貿易の相手先国・地域

主要国におけるハイテクノロジー産業貿易の相手先国・地域については、科学技術指標 2022 (2022 年 8 月公表)において分析した。その結果からは、次のようなことが確認された。日本では過去は米国が最も大きな輸出相手であったが、中国及びアジアへの輸出が多くなった。米国、ドイツ、中国については属する大州(アメリカ州、ヨーロッパ州、アジア州)への輸出が一定の規模を保っていた。輸入については、日本、米国、ドイツとも中国からの輸入が多くなり、中国では日本・米国に代わってアジア(日中韓以外)が最も多くなっていた。本コラムは主に当時から2〜3年後の状況を見る。

日本について2021年と2023年を比較すると、輸出入額共に減少した。輸出額では中国、ドイツ及びアジア(日中韓以外)が2割減少した。輸入額ではフランス、ドイツ、欧州(独、仏、英以外)が3〜4割減少した。中国も2割減少した。

米国について2021年と2023年を比較すると、輸出額はほとんどの国・地域で増加した。特にフランス、英国、欧州(独、仏、英以外)が4割増加した。輸入額ではアジア(日中韓以外)が3割、英国、欧州(独、仏、英以外)が2割増加した。一方で中国は2割、韓国は3割減少した。なお、対中国の貿易収支比は入超が継続している。最新年では0.2であり、ここに示した相手先国・地域中では最も低い。日本

については、1990年に0.4であった収支比が、2023年では0.8となっている。

ドイツについて2021年と2023年を比較すると、輸出額では、米国と北米・中南米(米国以外)が3割増加、中国は1割減少した。輸入額では規模の大きい欧州(独、仏、英以外)、中国が1割減少している一方で、アジア(日中韓以外)、米国、フランスは2〜3割増加した。

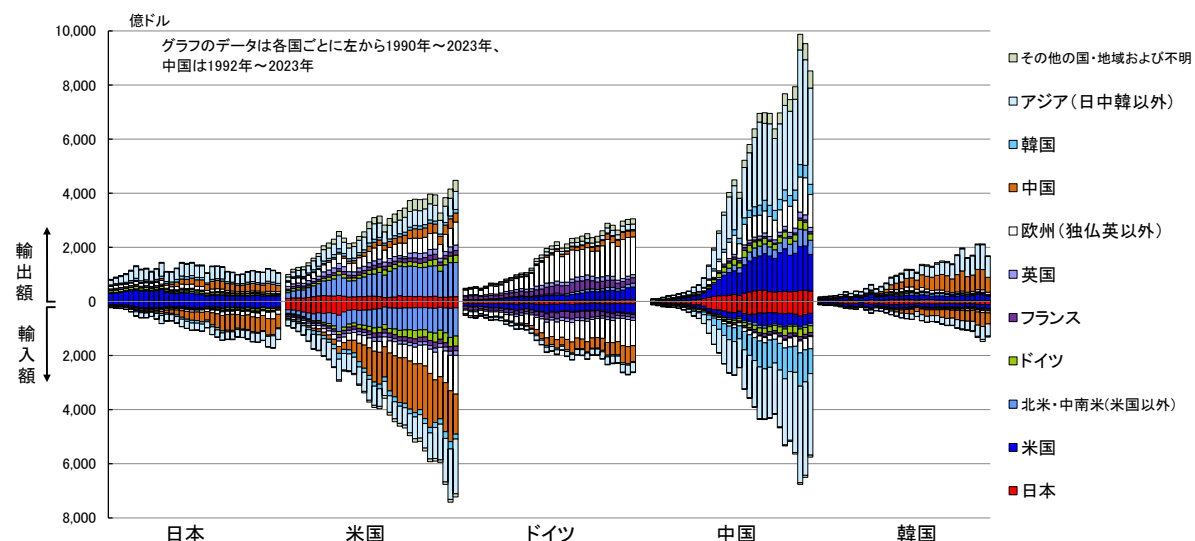
中国について2021年と2023年を比較すると、輸出額では規模の大きいアジア(日中韓以外)及び米国が2割減少した。輸入額では韓国が3割、アジア(日中韓以外)が2割減少した。なお、中国の貿易収支比は、約20年間で入超から出超に変化した国・地域が多く、米国は0.3(1992年)から3.7(2023年)になった。

韓国について2021年と2023年を比較すると、輸出額では規模の大きいアジア(日中韓以外)が2割、中国が3割減少した。輸入額ではほとんどの国・地域が増加したが、規模の大きい中国が2割減少した。

2021年から2023年において、各国相手先国としての中国の輸出入額が減少しているが、日本、米国のハイテクノロジー産業の輸入額は依然として中国の規模が大きく、入超の度合いも大きい。

(神田 由美子)

【コラム図表 5】 主要国におけるハイテクノロジー産業貿易額の相手先国・地域別推移



資料: OECD, "Bilateral Trade in Goods by Industry and End-use (BTDIxE)"
参照: コラム表 5